

6. 性的少数者の子どもたち

・性同一性障がいなど性的少数者の子どもたちが抱える問題は、深刻であるにも関わらず、放置されているという現状があります。

7. 地域の中の子どもたち

・子どもたちは、友だちや周りの大人との関係の中から、様々な体験を積み重ね、成長・発達していきます。

＜放課後の子どもたち・留守家庭の子どもたち＞

・保護者の就労などで、放課後、留守家庭の子どもが増えています。保護者の目の届かない場では、「家庭」「地域（施設）」「学校」の三者の連携が不可欠です。

・子どもが学校から自宅に帰るまで「安心して過ごせる場」の確保が求められます。

＜児童養護施設の子どもたち＞

・児童養護施設に入所している子どものおよそ60%が過去に家庭において虐待行為を伴う不適切な養育を経験しています。

＜地域の環境と子どもたち＞

・都市化の進展とともに、子どもたちが外に出て遊びたくなる空き地や原っぱが少なくなっています。

★「権利と義務」の関係は…？

子どもの権利を認めると、「我がままになつたりするんじゃないか。」と心配になりませんか？

権利を主張するなら、義務をきちんと果たすべき、と考える方もいると思います。

でも、子どもの権利は、何かの義務を果たすことを条件に認められるものではないはず。

生まれながらに誰もが持っているものなんです！

社会の中で、権利と権利が衝突することはあるかもしれません。そのときは、一方の意思を押し通すのではなく、お互いの権利を尊重し、調整することが大切です。調整して決めた結果を尊重する必要がありますよね。



3. 条例制定に向けての課題は何か！？

課題1. みんなで「子どもの権利」を学ぼう！

子どもの権利に関する関心や理解は、まだ十分とはいえません。

子どもと大人が子どもの権利を学ぶ運動を粘り強く続けていく必要があります。

「子どもの権利推進月間」なんてあったらいいですね！



課題3. 意見表明、参加の権利を保障

子どもを権利の主体として尊重し、意見を聴くことは民主主義の基本です。子どもが学校運営やまちづくりなどに参画でき、子どもと大人と一緒に議論することができる場や機会を保障することが大切です。

子どもの意見が反映された「札幌のまちづくり」って、とてもステキですね！

課題2. 生活の中での権利保障

子どもの権利条約が掲げる4つの権利(生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利)を柱として、分かりやすい平易な言葉で、家庭・地域・



学校で保障されなければならない子どもの権利を具体的に条例に明記する必要があります。

課題4. 子どもの成長・発達を支える地域社会の再生

地域は子どもたちの「育ち」の場ですが、近年は都市化とともに地域の「子育て力」は弱くなっています。

地域の「子育て力」を復活させませんか！

地域に住み、様々な活動をしている大人たちが手を取りあい、子どもを見守る地域社会を築いていく必要があります。